

## 特 集

### 特集『教育用情報システムを利用した ICT 活用教育』編集にあたって

総合情報基盤センター 講師 上木 佐季子

総合情報基盤センターでは、「富山大学の情報基盤として、学術研究・教育・事務の諸活動を支援し、さらなる発展に大きく寄与する」ことを目的として、種々の研究と業務を遂行しており、その一環として、本誌では研究・教育に関する情報を紹介しております。

2006年3月発行のVol.3では、2006年2月に五福、杉谷キャンパスの情報システムがリプレイスされたことを受けて、特集『新システムの紹介』を組み、新情報システムの概要をはじめ、学外からのアクセス、Webメールおよび学習管理システム等の紹介をしました。また、2007年3月発行のVol.4では特集『学習管理システム』として、学習管理システムに授業用コースを開設し活用している先生方にその実践報告をしていただきました。

そして今回のVol.5では、『教育用情報システムを利用した ICT 活用教育』と題して、教育用情報システムの環境や導入ソフトウェア(P.51の資料参照)に関して、授業での活用事例を中心に紹介する特集を組みました。

(ICT: Information and Communication Technology)

本特集の内容は以下のとおりです。

大西宏治先生(人文学部)の「地理情報システム(GIS)のフリーソフトを用いた地理学実習の運営」では、地理情報システム(GIS)ソフトであるMANDARAを用いた実践例を紹介します。

岸本忠之先生(人間発達科学部)の「数学科教育法における幾何作図ソフト Cabri-Geometry II の活用」では、幾何学ソフト Cabri-Geometry II の機能を概観し、それを教員カリキュラムの中の科目「数学科教育法II」で用いた実践例を紹介し

ます。

上山輝先生(人間発達科学部)の「人間発達科

学部(旧教育学部)におけるマルチメディア系演習について」では、教育用端末 iMac を用いた実践例として、旧教育学部の科目「マルチメディア表現演習」および人間発達科学部の科目「コンテンツデザイン演習」の内容を紹介し

ます。

新里泰孝先生(経済学部)の「経済学を題材とした「情報処理」の試み」では、五福キャンパス教養教育科目「情報処理」(経済学部・新里担当クラス)におけるエディタ、Word、Excel の実習テーマとして、経済学を題材に取り入れた実践例を紹介し

ます。

服部高明先生(経済学部)の「「経済政策論」での情報処理の試み」では、経済学部専門教育科目「経済政策論」において、その授業の一環としてパソコンを利用した情報処理実習を取り入れた経緯とその概要を紹介し、さらにその授業の評価と今後の課題について論じます。

小林久壽雄先生(理工学研究部)の「数学の授業と情報環境の活用」では、理学部数学科の科目「自然と情報の数理」での学習管理システム WebCT および総合情報基盤センター4F 端末室の教員 PC 画面モニター(受講者用端末2台毎に1台設置)の活用例を紹介し、また数式処理システムソフト Mathematica の可能性についても言及

します。

笹木亮先生(理工学研究部)の「機械知能システム工学科製図科目における教育用情報システムの活用」では、工学部機械知能システム工学科の製図関連科目における CAD ソフトウェア 鍋 CAD の活用について、および機械工学実験におけるグラフ作成ソフト SMA4 の利用について紹介し

ます。

布村紀男先生(総合情報基盤センター)の「情報通信ネットワーク演習での Mac OS X の UNIX 活用」では、教育学部専門科目「情報通信

ネットワーク演習」において、Mac OS X の UNIX 基盤の一部であるターミナルを利用した演習の内容について紹介します。

上木 (総合情報基盤センター) の「教養教育「情報処理」での ICT 活用」では、五福キャンパスの 1 年生約 9 割が受講する教養教育科目「情報処理」について、その概要を紹介します。

幸山直人先生 (理工学研究部) の「なるべくオープン」では、ICT を利用した教育を始めたきっかけと ICT 利用教育の実践概要を述べます。

木村裕三先生 (医学薬学研究部) の「ICT 活用の英語教育実践—自習室としての情報実習室(杉谷キャンパス)ICT 活用事例—」では、杉谷キャンパス情報処理実習室での自習形態型英語教育ソフトについての実践報告をし、さらに今後の課題について論じます。

藤田徹也先生 (芸術文化学部) の「高岡キャンパスにおける情報教育」では、まず高岡キャンパスの情報システムについての概要を説明し、そのシステムを利用した授業科目と今後の課題について論じます。

折笠秀樹先生・熊谷直子氏 (医学薬学研究部) の「JMP 統計ソフトへの誘い」では、本学全体でのサイトライセンス契約をしている統計ソフト JMP について、その特徴を紹介します。

小川亮先生 (人間発達科学部) の「大学の講義における ICT 活用の効果と課題」では、大学の授業における ICT 活用について、教員による授業改善を目的とした利用という面と、学習者への ICT 利用促進という両側面からそれらの効果を述べ、さらにそれらの課題について論じます。

山田純一氏 (総合情報基盤センター) の「端末室配信システム」では、Windows 端末への配信システム (2006 年 2 月のシステムリプレース時に新しく導入されたもの) について、その概要と効果を説明します。

笹野一洋先生 (医学薬学研究部) の「NetBoot による Macintosh 情報処理実習システム」では、杉谷キャンパスでの情報処理実習システムの変遷と NetBoot システム採用の経緯を紹介し、さらに現行の NetBoot システムの効果および問題点と課題について述べます。

藤井厚子氏 (附属図書館学術情報管理課) の「情報処理実習室を利用した医学・薬学系共用試験 (CBT) の実施」では、医学・薬学系の共用試験において、受験者がコンピュータに用意された問題を解答するというテスト形式 CBT (Computer Based Testing) を採用、実施したことについて紹介します。

上木 (総合情報基盤センター) の「授業での学習管理システム利用について」では、学習管理システム WebCT について、コースの新規作成から受講者登録までの流れ、およびコース上での教材作成手順についての概要を説明します。

なお、資料として、情報教育用端末室に導入されているソフトウェア一覧 (2008 年 2 月 1 日現在) を載せてあります。

本特集が、皆さまの ICT 活用教育への関心向上に貢献できれば幸いです。

最後に、お忙しい中、本特集の執筆を快く引き受けてくださった著者の皆さまに深謝いたします。